

分断時代の 経営戦略

23

荏原は2028年12月期までの3カ年中期経営計画で、成長投資に総額2600億円を充てる方針を掲げた。中東情勢の混乱などで地政学リスクが高まる中、エネルギー、建築・産業、精密・電子といった事業ごとに投資案件の見極めが求められる。荏原（中国）の董事長も務める刈田徹也執行役に環境認識や今後の戦略を聞いた。

――中東情勢の影響と遅れが生じた。現在は対応は。

「現地向かえない 極めながら対応しているためエネルギー事業で。間接的には塗料のサービスやサポートに 調達などで懸念があっ

成長投資、リターン重視

荏原執行役 刈田 徹也氏



戦略最適化 好機逃さず

だが、塗料の種類や色 要はなくならない。の変更といった代替手（26年の）上期に滞った分が下期に移り、現る。かねて複数の調達 時点ではトータルで大先から仕入れているこ きな影響は出ないとも功を奏した。戦況 ている」

――米関税など各国は想定より長引いてい の政策への対応は。

「関税は結果的に大 調達は基本的に日本国内からしている。サプ きな影響を受けずに済 ライヤーの高い技術力 領域で使用されるコン に支えられているほ プレッサーやタービン か、経済安全保障の目 などの製造拠点が米国 的もある。事業によっ にあり、仕入れ先も基 て性質や直面する状況 本的に米国内。カスタ が大きく異なるため、 ムメイドの製品が多い それぞれに適した戦略 ことも理由の一つだ。 を採っていく」

――地域別売上高で約 エネルギー事業やポン 2割を占める中国市場 プなどの建築・産業事 の動向をどう見ている 業は調達先を広げてお すか。

――コモディティ 研磨（CMP）装置な （汎用品）化された製 どの精密・電子事業の 品は現地メーカーが強

い。一方で中国も社会 ではなく、きちんとリ がどんん成熟してお ターンを得ていく。投 り、ハイエンドの製品 資の機会を逃さないこ を求める要望が出てき とも大切で、投資先の ている。エネルギー、 ラインアップが充実し 精密・電子、建築・産 業のいずれの分野にお 想。回収と機会確保の いてもそうしたニーズ 両輪で進めていく」

――人材の育成も欠か せません。

――成長投資に260 0億円を充てます。 次世代の経営を担う層 ルギー、建築・産業事 あると考えている。フ 業を中心に生産体制の アイナンス面では、事 拡充や技術開発への投 資を進める。M&A（合 併・買収）を含め、実 断でできる人が必要だ」

――最適な方法を見極め （梶田萌） （おわり）